

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600197		
法人名	社会福祉法人勝縁福祉会		
事業所名	社会福祉法人勝縁福祉会ひごろもそう		
所在地	山口県防府市大字浜方8番地1		
自己評価作成日	令和3年1月15日	評価結果市町受理日	令和3年6月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和3年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年施設の夏祭りを行い、地域の方との繋がりを大切にしていたが、今年はコロナウイルス感染拡大防止予防の為、施設職員、ご利用者様で行った。ご利用者様が地域の方との繋がりが無い分、行事ごとを月に一回以上行い、楽しんで頂き、メリハリのある生活をして頂けるように心がけている。また、この施設を担う若い職員を育てる人材育成にも力を入れており、研修、会議などで意見を言える場、考える場、発表する場を設け、職員一人一人のスキルアップに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、グループホーム会議やカンファレンスで、利用者が笑顔で楽しく、幸せを感じられる生活を送れるように、事例検討をされてケアを振り返っておられます。この1年、コロナ禍にあって、家族との面会の制限や外出の制限を余儀なくされた利用者へ寄り添われ、家族の不安を軽減されるために、職員が付き添っての窓越しの面会を工夫されたり、利用者の様子を家族に知らせる手紙に写真を加えられたり、家族の来所時には、管理者や計画作成者が介護の状況を詳しく説明されるなど、どうすれば自分たちが課題に対応することが出来るかを考えながら、支援に取り組まれています。月1回、誕生会と合わせて行っておられる「調理リレーション」や、多彩なおやつづくりに加えて、例年とは違ったイベントとして、夏には花火やスイカ、秋には焼き芋や豚汁会などをされて、利用者の楽しみづくりに取り組んでおられます。若い職員の発想が活かされた企画は、「これ食べたことがないね」などの声が上がリ、笑顔での会話につながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの事業所理念をつくり、いつでも確認できる場所に掲示して、共有して実践につなげている	全職員で話し合っ、地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。月1回のグループホーム会議でケアを振り返り、カンファレンスで利用者が笑顔で楽しく、幸せを感じられるように事例検討している。管理者は、職員間で理念を共有して意見を言い合える環境をつくり、職員全体で理念に沿った取り組みにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍である為、活動も制限されるが、自治会へ加入し清掃活動等に参加する意向であり、夏祭りを開催し地域の方々にご案内している。行事の食材は地域のスーパーを利用している	自治会に加入している。コロナ禍の為、総会への出席や清掃活動、法人と自治会が共催する夏祭り等は中止となっている。ボランティアの来訪も中止している。行事等の食材の購入は、地域のスーパーを利用しているが、利用者の外出は制限される状況である。	・地域の人と日常的に交流できるような工夫
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々へ向け活かしている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回の評価について改善点を話し合い取り組んでいる。自己評価表は閲覧できるように管理者がまとめている	管理者は、グループホーム会議で職員に評価の意義について説明して提示し、2名の補佐役とともに管理者がまとめている。まとめたものは職員に報告し、職員間で日々のケアの振り返りを行っている。事業所としてどのような視点で業務を行わないといけないのかの理解につながり、グループホーム会議で、研修に参加できなかった職員への復伝を行うようにするなど、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の予定を立てているがコロナ禍の為現在は中止している	会議は、法人の併設施設(特別養護老人ホーム)と合同で2か月に1回開催し、利用者の状況や活動状況、行事予定、事故報告等を行い、話し合いをしている。コロナ禍にあり、4月以降は市と相談の上開催を見送り、メンバーに書類を送付している。	・運営推進会議を活かす工夫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町担当者と日頃から連絡を密にとり、事業所の実情を伝え連携を取るようになっている。議事録提出、介護保険更新、市との報告等を密に行うようになっている	市担当者とは、運営推進会議議事録提出時や介護保険認定更新時に出向いて相談し、情報交換している他、運営に関する相談などで助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは、地域の人からの問い合わせに、計画作成担当者が連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修実施で見直す機会を持ったり、事業所内の月1回会議内での話し合いを実施マニュアルにより全職員には周知徹底している 出入口にはチャイムを設置。夜間のみ施錠をしている	身体拘束に関する法人研修(年2回)の参加者が、グループホーム会議で復伝し、職員に周知し話し合っている。法人の「身体拘束等の適正化のための対策検討委員会」で、身体拘束になりうる事例やスピーチロック等の報告を行い検討している。職員は「身体拘束に関する指針」を通して学び、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。コロナ禍で利用者の外出は控えているが、外出したい利用者があれば、職員が事業所の廊下を雑談しながら一緒に散歩したり、窓からの景色を見ながら声かけをして、楽しい雰囲気づくりをして、気分転換できるように工夫している。スピーチロックについて気になるところがあれば、職員間でも注意し合ったり、「身体拘束等の適正化のための対策検討委員会」で検討して、改善に努めている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の研修実施。事故報告書の内容を毎月ミーティングで話し合っている。介護時複数のスタッフが関わる為、身体を観察、チェック等をおこなっている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度をについて学ぶ機会を持ち、今後も活用できるように支援していきたい		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定時は不安や疑問点を尋ねご理解いただけるように説明をして同意欄に署名捺印を頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの相談、苦情内容を管理者を含め職員が真摯に受け止め反省、改善に反映し外部へ表す機会を設け更なるステップアップへ繋げている	相談や苦情の受け付け体制、第三者委員、処理手続きを「重要事項説明書」に明示し、契約時に本人と家族に説明している。意見箱を設置している。面会は制限されているが、来訪時や電話、手紙、メールなどで、家族からの意見や要望を聞いている。毎月送付する事業所だよりに同封して、利用者を担当している職員が写真や手紙で、家族に行事や暮らしの様子を知らせて、意見や要望が言いやすいよう工夫している。家族からの意見や要望は生活記録や申し送りノートに記録して職員間で共有し、グループホーム会議で検討して、本人や家族の要望に応えることができるように取り組んでいる。コロナ禍が落ち着いたら、外出を楽しませて欲しいという要望があがっている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内で事故委員会、栄養委員会、教育員会、行事委員会、感染委員会、褥瘡委員会、運営委員会等があり、意見や提供を積極的に採用し反映させている。	代表者や管理者は、月1回のグループホーム会議やカンファレンス、申し送り、委員会(事故、栄養、教育、行事、感染、褥瘡、運営)活動の中で職員の意見や提案を聞いている。管理者は、職員が気軽に話すことができるよう雰囲気づくりに努めている。コロナ禍で利用者の外出が難しいため、職員からの提案で、事業所内で利用者が楽しめるイベントを企画して、花火やスイカ食べ、焼き芋会、豚汁会を行っている。利用者を担当している職員からの家族への手紙に、行事の時の写真を添えて送付するという提案や、車いすや介護用品の利用等に関する意見や提案があり、運営やケアに反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員に労働時間、給与水準、やりがい等、各自向上心を持って働けるよう職場環境、条件設備の努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設事業所との施設内研修に参加し、ケア実践能力の向上に努めている。グループホーム独自の研修も行ってはいたが、現在は出来ていない状況である。	外部研修は、必要に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。この1年では、認知症実践研修と成年後見人研修を受講している。受講後は復命書を提出している。法人研修は、年間計画を立て、年20回、法人職員や医師、栄養士らが指導者となって、食中毒、おむつの選び方、介護事故、医療安全、虐待防止、感染症、身体拘束、認知症の方のかかわり方、レクリエーション、褥瘡等について実施している。内部研修は、法人研修の受講者が講師となって、グループホーム会議で復伝講習を行っている。新人職員は日々の業務を通して、管理者や先輩職員から学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークや勉強会、相互訪問等の活動を通じてサービス向上の取り組みをしている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	思いを傾聴することで心からの要望が言葉になって本人様との信頼関係を確立させていける。安心感が大きく関わる		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安なこと要望に傾聴しながら関係づくりに努める		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が一番必要としている支援に対してサービスを提案し、検討する。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人を介護される一方の立場に置かず暮らしを共にする同士の関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族を支援される一方の立場に置かず本人と家族の絆を大切に、共に支えていくという関係を築いている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	この一年間は、コロナウイルス感染拡大防止予防のため、施設全体の対策として、外部の方との接触はなるべくないようにしているため支援することが出来ていない。	コロナ禍で、令和2年3月から面会制限をしているため、事業所への来訪者はないが、感染状況が一時落ち着いた際には、時間(15分程度)と場所(デイサービスセンター)を制限して予約制で対応した期間がある。事業所の窓越しに面会ができるように対応したり、利用者や窓の風景を見ながら楽しい雰囲気です話すことで、馴染みの人や場所を思い出せるよう努めている。家族のご協力を得て、通夜への参加や通院などの支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を理解し、共同空間の席並びは考えて配置をし、利用者同士が関わり合いを持って頂けるようにしている。何かある際は職員が間に入るようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様がどう生きたいか どんな生活がしたいかを基本に問うことで本音の部分を理解し対応していく	入居前に自宅や入所施設を訪問し、本人や家族から、これまでの生活史や環境などの話を聞き、フェースシートを活用してアセスメントして、思いや意向の把握に努めている。職員は、日々のかかわりの中で利用者に寄り添い、生活記録に本人の表情や言葉、行動をありのままに記載し、申し送りノートで毎日の情報を共有して、月1回のグループホーム会議で検討して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族に聞いたり、職員間で話し合い本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	傾聴による情報収集、生活歴、暮らし方、生活環境を知る。家族、友人からも情報を得る		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態の現状把握に努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が笑顔で、楽しく、ゆったりとした気持ちで過ごせる為に、関係者と話し合い現状に添った介護計画を作成している	計画作成担当者と管理者が中心となって、月1回のグループホーム会議時にカンファレンスを実施し、本人の思いや家族の意向、看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3か月毎にモニタリングを行い、見直しをしている。家族の面会、来訪時に介護の状況を詳しく説明し、家族からの要望や思いを聞いて、利用者の状態や家族の要望に変化があれば、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践により改善点や工夫を個別に記入し職員間で共有しながら介護計画の見直しに活かしている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、ご家族様の状況の変化でニーズも変化する。柔軟な対応、支援に取り組んでいる		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、本人が地域の中で自分らしく生活することを支援する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、事業所に関連のある病院の医師と連携し、本人様ご家族様のご意向にあった医療を受けられるように支援している	本人や家族の納得を得て、利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の訪問診療を受けている。1週間に1回、訪問看護師が来訪し、バイタルチェックなど健康状態を確認し、かかりつけ医に報告している。必要に応じて、歯科と皮膚科の往診がある。他科は家族の協力を得て受診の支援を行っている。受診結果は生活記録に記録して職員間で共有し、家族には電話で報告している。協力医療機関と24時間オンコール体制で連携し、休日や夜間を含め緊急時も適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の関わりの中で変化、気が付いた点を看護職、訪問看護師に報告、相談する 内容によるが必要であれば医師からの助言を聞き看護師からの指導も受けながらケアしていく		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、治療方針など、本人様ご家族が安心できるように説明を受けられるように支援する 退院時には、毎日の生活で気を付ける点、観察が必要な点など情報を病院と共有し確認する		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期のご希望をきちんと話し合い確認しておく。施設で出来ることを十分に説明しご家族に理解していただく。	契約時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を基に、事業所でできる対応について家族に説明し、同意書を交わしている。実際に重度化した場合は、かかりつけ医と相談し、家族と話し合って方針を決め、職員間で話し合っ、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止には、事故報告書より自己分析を行い、再発防止に取り組んでいる。 定期的な研修、施設マニュアルでの確認・復習は行っているが、全職員が出来ていないため、研修・指導を行っていくところである。	事例が生じた場合は、事故報告書やヒヤリハット報告書に状況や要因、処置、経過、今後の対策などを記録し、当日上司に報告している。翌日、「なぜなぜ分析シート」を活用して、管理者による指導を加え、全職員で話し合い、再発防止策を検討して、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。事故防止マニュアルがあり、訪問看護師から事例に合わせた指導を受けている。法人研修で介護事故防止、感染症、食中毒等について学び、内部研修で復伝しているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と年2回合同で、昼夜を想定したの避難訓練・通報訓練・消火訓練を行っている。 非常口、消火器の場所も周知している。 また地域との協力体制を築いているが合同訓練までには至っていない。	年2回、拠点施設合同で昼夜の火災と高潮を想定した、消火、通報、避難誘導、避難経路の確認、防災機器の使い方の確認の訓練を利用者も参加して行っている。防災マニュアルがあり、3日分の食料や飲料水等の備蓄がある。拠点施設は高潮時の地域の避難場所となっているが、運営推進会議の中止もあり、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修で理解、再確認をしている。 一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけを気を付けて行っている。 気になる対応があれば、職員間でその都度声掛けをしている。	職員は、新人研修や法人の「認知症利用者様との関わり方」研修、管理者からの指導などで学び、グループホーム会議で話し合っ、「あなたにやってもらって良かった」と感じてもらえるような接遇の心を持って支援に取り組んでいる。気になる対応があればその都度、管理者や計画作成担当者が指導したり、職員同士で注意し合っ、人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。記録類の管理、保管に留意し、守秘義務を遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や入浴、余暇活動など声掛けをする際には、出来る限り自己決定して頂けるように声掛けを行っている。 自己決定が困難な方には、その時の表情を読み取るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余暇活動など行う際には、利用者に何をしたいか声掛けを行い、その日の利用者の、状態ペースに合わせて支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には、鏡を見て、整容、整髪を整えて頂いたり、ご自身で着替えの服を選んで頂いたりしている。 できない方には、声掛けをしたり、整容を行ったりと支援をしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併用の厨房で調理している。 調理レクリエーションでは日頃食べれない物や旬のものを入居者の要望を聞き、食材の調理を職員と共に行っている。	食事は、三食とも副食は法人厨房からの配食を利用し、事業所でご飯や粥を炊いている。利用者の好みに合わせた食品交換をし、一人ひとりに合わせた形状や食器の工夫をして提供している。職員は法人の栄養委員会に、利用者の好みや摂取状況、食事の味付けや量、色彩等について報告して、献立に反映させている。季節毎に行事食(おせち料理、節句の寿司、ソーメン流し、年越しそば、利用者がデコレーションするクリスマスケーキ、お彼岸時のおはぎ、七夕ゼリーなど)を提供している。月1回、誕生会と合わせて「調理レクリエーション」を設けて、利用者の希望する献立(ラーメン、ちらし寿司、チキンカレー、たこ焼き)の昼食づくりに取組み、利用者は野菜の下ごしらえ、切る、混ぜる、盛り付けなどできることを、職員と一緒にしている。おやつづくり(たいやき、ワッフル、ピザ、ベビーカステラ、苺ショートケーキ、フルーツポンチ、かぼちゃプリン、苺パフェ、どら焼きなど)では、「これ食べたことがないね」等の会話につながるなど、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の献立については、管理栄養士にて作成され栄養バランスを取っている。 24時間シートにて、食事量、水分量の記載を行い、利用者の状態に合った食事形態の見直し、変更を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。 ご自身で出来る方はして頂いているが、仕上げ磨き、口腔内の確認などはこちらで行っている。口腔内に異常がある際は、歯科往診をご家族に確認し行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間シートを活用し、排泄パターンや利用者にあった声掛けを職員が把握しており、その都度声掛けを行っている。	24時間シートを活用してパターンを把握し、羞恥心や不安に配慮した言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	24時間シートを活用し、確認、把握している。 余暇活動にて身体を動かして頂いたり、趣味活動をして頂いたりして、1日の生活リズムを整える支援をしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個室で入浴される利用者は、週3回以上できるように支援を行っている。 入浴希望のある利用者には合わせて入浴を行っている。時間は大体午前中になり、職員都合になっているところもある。	入浴は毎日、10時30分から16時までの間可能で、週3回以上、希望があれば毎日入浴できるよう支援している。順番や湯加減、好みの石鹸や入浴剤を使って、おしゃべりをしたり、足の屈伸運動をするなど、利用者がくつろいで入浴できるように支援している。利用者の状態にあわせてシャワー浴やチェア浴、清拭、特浴などの支援をしている。入浴したくない人には、無理強いしないで、時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をするなど、個々に応じた支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間よく安心して眠って頂けるよう 日中余暇活動で体を動かして頂いたり、趣味活動をして頂いたりして 1日の生活リズムを整える支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬科の情報を綴りにし、すぐに確認できる状態にしている。服薬内容が変わった際には、申し送りノートに記入し情報を供している。用法・用量に関して不明な点は看護師に相談し確認している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、調理レクリエーションの食材調理等、役割を作り、活躍できる場の提供を行っている。余暇活動で体を動かして頂いたり、カラオケ、音楽を流したり、散歩をしたりと気分転換を図る支援をしている。	拠点施設合同の行事(焼き芋大会、クリスマス会、門松づくり、夏祭り、盆踊り大会、花火会、豆まき)、誕生日会、誕生日会に合わせて行う調理レクリエーション、月1回のおやつづくり、新年会、忘年会、クリスマス会、テレビやDVD(歌番組)、ラジオの視聴、体操(グーパー体操、みんなの体操、ラジオ体操、指体操など)、ソフトボール投げ、カラオケ、歌を歌う、かるた、トランプ、折り紙、切り絵、季節の壁面飾りづくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物の収納、新聞たたみ、タオルたたみ、カーテンの開閉、プランターへの花の苗植え、包帯巻きなど、利用者の気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、コロナウイルス感染拡大防止予防のため、施設外への外出支援はできていない状況である。施設敷地内では、行事、散歩時など出て頂き、支援を行っている。	法人としてのコロナウイルス感染予防対策で、通院以外の外出は控えている。法人敷地内での行事として、夏祭り(花火、スイカ食べ)、焼き芋、豚汁大会に参加している。気分転換を図るため、法人施設の敷地内の散歩に出かけている。 家族の協力を得て、通院やお通夜への参加の支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時のお小遣いや医療費などは、ご家族より現金を預かり管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様、ご家族様が必要な時には、施設の電話であ電話をされたりしている。本人は手紙を書いていないが、職員にて毎月利用者の状態・状況などを手紙にて記載し、写真コピーと共にお送りしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所の前には、利用者の混乱がないように社用車以外の車は置かないようにしている。 共用の空間などは季節を感じられるように飾りつけを行っている。 温度、室温調整、換気等を行い、居心地よく過ごせるようにしている。	食堂兼リビングは大きな窓から自然光が差し込んで明るく、開放的である。室内は大きな食卓やソファ、大型テレビを配置し、利用者がゆっくりとくつろげる空間となっている。壁面には利用者の行事の時の写真や、季節の壁面飾り(春には桜、5月は向日葵 6月は紫陽花 7~8月は花火、秋にはハロウィン、紅葉、冬はクリスマス)を飾っている。台所からは食事の準備の音や匂いが漂い、生活感を感じることができる。温度や湿度、換気に配慮し、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中、居室にて過ごされたい利用者は過ごされたり、共用空間は気の合った利用者同士で過ごせるように席の配置を配慮したりソファ席で過ごして頂いたり工夫を行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が以前使用していた使い慣れた家具などをそのまま使用し、利用者それぞれに合わせた居室の配置を工夫し、居心地よく過ごせるようにしている。	テレビ、仏壇、床頭台、箆笥、衣装ケース、衣装掛け、三段ボックス、机、椅子、時計、小物入れ、衣類、手押し車、化粧品などの日用品など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真、相撲取りのポスター、皇室カレンダー、夫の撮影した風景写真、祝いの色紙、母の日の花箱などを飾って、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の残存機能を把握し、「できること」「わかっていること」を活かし、見守り、支援、介護を行っている。安全に生活できるように環境設備を日々見直し行っている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホームひごろもそう

作成日: 令和 3 年 6 月 12 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	・地域の人と日常的に交流ができるような工夫	・運営推進会議にてテーマと自治会との話し合いの場として地域との関りを増やす。 ・地域の保育園や小学校やボランティア団体などに声をかけ、慰問などの依頼や運動会などの行事に参加できるように働きかける。	①運営推進会議にて、自治会長に相談し地域との交流が出来るように声かけをする。 ②保育園や小学校の行事に参加できるように、連絡等を行い参加できるようにし、外出の機会を増やす。 ③地域のボランティア団体に慰問の依頼を行い、ご利用者様の余暇活動につなげる。	12ヶ月
2	4	・全職員の評価の意義と項目の理解	・全職員に自己評価を開示し、わからない項目に関しては、月一回の会議にあげ、全職員が理解できるようにする。 ・出来ていない部分に関しては、自己評価に沿って業務を行いより良い支援を目指す。 ・職員一人ひとりがグループに何が求められているかを理解できるようにする。	①自己評価の開示と職員が熟読をする。 ②理解できていない所は会議の議題としてあげ、全職員が理解できるように努める。 ③自己評価に沿って業務を行い、よりよい支援を実施する。	12ヶ月
3	5	・運営推進会議を活かす工夫	・施設運営につながる意見が出るようなメンバーの拡大をする ・地域との交流が増える場になるようなテーマ作りや話し合いの場にする	①運営に関わる意見が出るようなテーマを提示する。 ②地域との交流が拡大するような場とする。 ③①②に対して意見や助言ができるような福祉関係に携わる有識者をメンバーに加える。	12ヶ月
4	14	内部研修の充実	・内部研修を年最低12回実施し、参加できなかった職員は、責任をもって後日研修を実施する。 ・施設内研修を職員は自主的に参加し、スキルアップに努める。	①研修ごとに参加者集計を取り、職員に何が足りていないかを理解し研修に活かす。 ②参加できなかった職員に伝える。 ③研修担当は新人・中堅職員が勉強し、その事を発表する事でスキルアップを目指す ④研修内容は外部評価及び評価表から抜粋し実施する	12ヶ月
5	35	・全職員が実践力を身に付けるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施	・応急手当や初期対応についての実践力の向上を目指す。 ・医師・訪問看護師との連携が取れるように常に情報交換を行い、スムーズに対応が出来るようにする。	①訪問看護ステーションプルメリアに協力を得て、応急手当や初期対応の研修等を年6回実施する。	12ヶ月

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。